

日本の未来を見据えて撃つ！
そんなあなたにホットな話題をお送りする
最先端オピニオン紙

日本シティジャーナル

発行：ネットハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3
TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334
<http://www.nihoncity.com>
成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市
千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、四街道市
酒々井町、栄町、小林、安食、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町
発行部数：500,000部

邪馬台国への道のり Part.VI 鐘崎港を玄関とする宗像が、末盧国の比定地である理由

邪馬台国への旅路の中で最も重要な拠点となる倭国への玄関が、九州北部の末盧国です。その比定地の位置づけにより、邪馬台国への道のりの想定が大きく左右されるからです。魏志倭人伝によると末盧国に至るには、壱岐より「一海を渡る。千余里で末盧国に達する」とあります。そこは「山が海にせまり」、山裾の海浜沿いには民家が並び、その数はおよそ「四千余戸」とも記載されています。また、「草木が茂り、行くに前の人が見えない」程、周辺の地は未開でした。そして文化と生活様式については、人々が「好んで魚フクを捕え、水深浅となく、皆沈没してこれを取る」とも明記されています。

この末盧国の比定地については諸説があるものの、これまでに一般的には佐賀県松浦郡周辺の松浦や唐津、名護屋がその候補地の筆頭として提唱されてきました。しかしながら、末盧国が松浦郡であるという前提で魏志倭人伝を読み通すと、史書の記述と合致しない矛盾点が散見され、更にその後の邪馬台国への道のりの解釈においても、多くの課題が残されることとなります。つまり、壱岐からの距離や旅の方角、周辺の地形だけでなく、松浦郡は長崎県や佐賀県の山々に閉ざされた陸路に不便なエリアであることから、そこから東南

方向に向けて旅を継続する前提で停泊する港としては理にかなっていないようです。そこで今一度振り出しに戻り、日本の地図をじっくりと参照しながら、魏志倭人伝の記述を頼りに、末盧国の比定地を再考してみました。

3D画像が映し出す倭国の姿

つい先日リリースされたGoogleの3Dマップを用いることにより、地球上のあらゆる場所をピンポイントで見ることができるようになりました。その素晴らしい鮮明度とユーザーインターフェースは世界中で絶賛されています。この3Dマップを活用して、邪馬台国への旅路の対象となる倭国の全体像を把握するため、朝鮮半島の最南端となる巨済島の岬からおよそ、東南方向に眺めた列島の島々を映し出したのが下記の画像です。手前の壱岐から、九州、四国、中国地方、そして淡路島の先の方までが鮮明に映しだされています。島々の位置付けだけでなく、平地部の広がる地域や山岳地帯等、列島の地形が手に取るように分かります。それら地理的要因を踏まえた上で、古代の旅人が果たしてどのようなルートで様々な地域を往来していたのか、その道筋を検証するために所々ズームアップして実際の地勢を確認してみました。

壱岐から末盧国まで船で渡る航路を想定する際、当然ながら末盧国へ到達した後の行程も視野に入れなければなりません。そこで末盧国の比定地として候補に挙がっている地域から邪馬台国へ至る陸路を、3D画像を辿りながら古代の陸路を想定して探索していくと、すぐに一つの壁にぶつかることに気が付きます。佐賀県や長崎県北部の沿岸周辺には平野部が少なく、内陸側には山地が密集している為、壱岐からの渡航距離は短いものの、その後の陸路が塞がれている感を否めないのです。つまり九州北部に着岸する港を松浦や唐津、名護屋に想定しても、その後の陸路との繋がりが見えてこないのです。但し、邪馬台国が長崎県や佐賀の山々、もしくはそれらの山々を南に超えた佐賀市や有明海方面に在るという前提ならば検討の余地が残されます。

むしろ末盧国の比定地を平野部が広がる地域が増える博多湾から東側に想定した方が、邪馬台国へ向かう陸路としての可能性のあるルートをごく自然に見出すことができます。古代社会においても先人の知恵は優れていたに違いなく、徒歩で旅をする際でも、労力を最小限に留めるために、一番効率の良い陸路を見出したことでしょう。よって、徒歩の旅に適切な陸路であるか

を検証する為にも、3D地図の活用は有効です。

末盧国が鐘崎・宗像である8の理由

史書の記述を元に、末盧国の比定地を九州北部の沿岸に探し求めた結果、その記載内容にほぼマッチングし、更にはその後の陸行、水行を含む旅程に関しても無理なく理解できる一つの岬村の存在が浮かび上がってきました。玄界灘でも一番危険な海域に近い宗像部の最北端に在り、海人の発祥地としても名高く、そのすぐ傍には北九州界限でも宗教的には最も影響力を持つ宗像大社が存在する鐘崎こそ、末盧国の比定地となる最有力候補です。その理由を以下の8項目にまとめてみました。

1. 壱岐から千余里の唯一の選択肢

魏志倭人伝には壱岐から末盧国までの距離が「千余里」と記載されています。壱岐から1000余里、短里でおよそ70-80km離れた地点を、壱岐を中心としてコンパス状に描き、九州の沿岸と交差する地点を地図上で見ると、南方面では佐世保市の南方にある佐世保湾沿い周辺、東側では福岡の鐘崎・宗像周辺と交差します。前者は、旅の方角が南方を目指しすぎているだけでなく、末盧国以降の旅程を史書の記述通りに追うことが難しいため、選択肢から外さざるをえません。唯一残された選択肢となる鐘崎については、壱岐の郷ノ浦からはおよそ80km、古代に港が栄えたと考えられる東側の石田町からは約71km

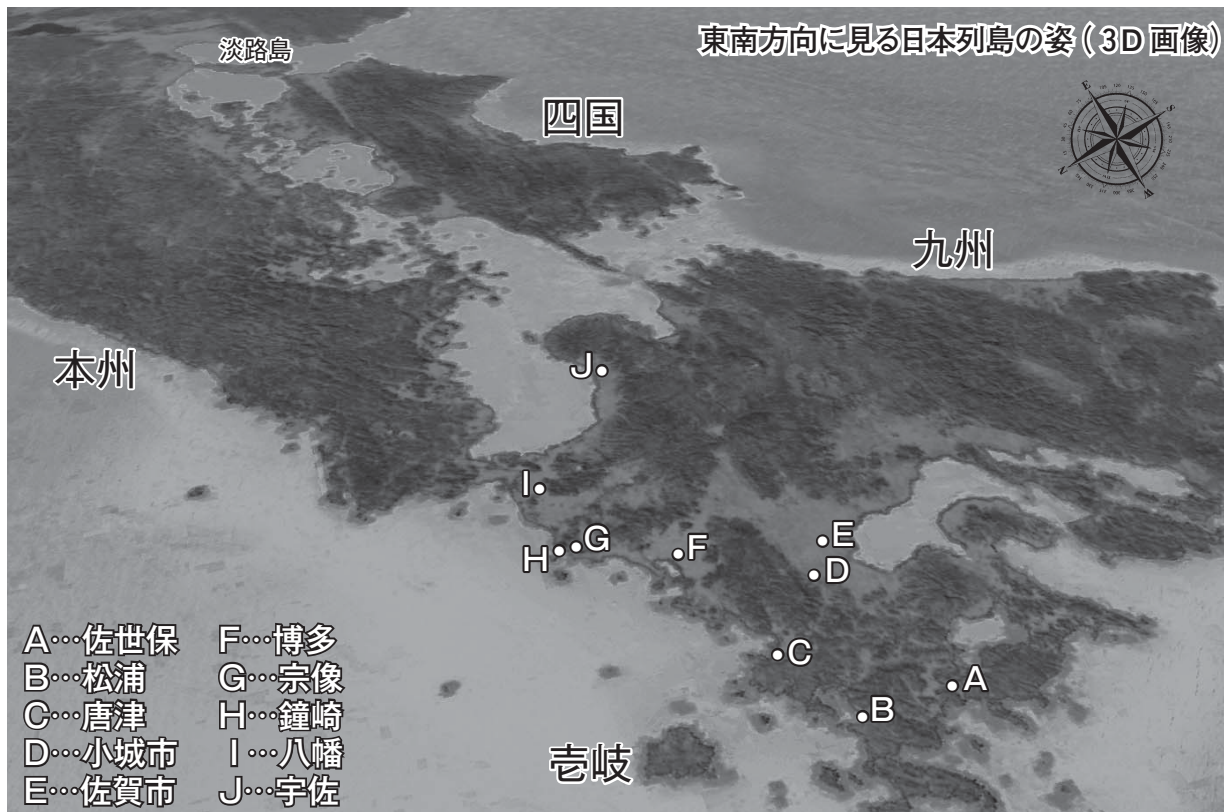
の距離となり、どちらも短里の計算で千余里の範疇に入ります。また、その後の旅の経路も史書の記述に従って、無理なく理解することができるのです。

ところが唯一の選択肢であるはずの鐘崎が定説となることはなく、むしろ松浦や唐津が末盧国の比定地であるという説が主流となっています。確かに、古代社会における船旅の危険性を考慮すると、まずは近距離にある港に着岸することを優先して考えます。また、末盧という発音が松浦に類似していることから、松浦郡周辺の港町を末盧国の比定地として考えられがちです。しかし郷ノ浦から松浦や唐津までの距離は40数キロ程しかなく、壱岐から最も近距離にある名護屋港では、郷ノ浦から約30km、500里もありません。よって、「1000余里」の解釈は困難になり、古代の計測値は数字が曖昧である、もしくは誤植として理解するしか術がなくなります。

今一度、原点に立ち返り、壱岐から1000余里という記述に合致する唯一の選択肢である鐘崎と隣接する宗像について徹底した検証が行われるべきでしょう。そうすることで、必ず末盧国の正体が見えてくるはずです。

2. 壱岐から航海する方角

帯方郡から邪馬台国へ向けて旅するにあたり、水行や陸行を通して旅する方角も重要です。魏志倭人伝には、「倭人は帯方郡の東南の大海の中にある」と記載されています。これは朝鮮半島の北西部から見て、そこから東南



次頁に続く

の方角に邪馬台国が存在していたことを意味します。それ故、邪馬台国への旅路は、全体像としては東南の方角へと向かうことになりませんが、所々ではその地域の地勢に応じて東南とは違う方角に旅を進めることもあります。

例えば狗邪韓国から対馬へは、およそ東南の方角に1000余里航海しますが、対馬から壱岐にかけては「南に一海を渡ること千余里」と記載されている通り、南の方角に向かって航海を続けます。ところが、壱岐から末盧国への航海に関する記述には方角についてのコメントがなく、「一海を渡る、千余里」と書かれているだけです。壱岐から鐘崎に向かうには、ほぼ東方向に航海する必要がありますが、その場合でも、史書には方角を特定する記述が無い為、何ら矛盾はないことがわかります。また、当初対馬から壱岐に向けて南方へ航海する為、全体的に東南の方向へ旅を続けようとするには、南へ向かった分、一時は東方面に向かって旅すること自体、理に適っていると言えます。

つまり壱岐の東方面にある鐘崎に旅すること自体、何ら問題はなく、むしろその後の旅程がどうなるか、ということが大切です。壱岐から海を渡り、その港から今度は陸行の旅を続けて、その遥か先にある邪馬台国へと向かう訳ですから、そこから東南方向への旅を、無理なく持続できるという地勢に恵まれた場所であることが末盧国の比定地となる条件です。その港こそ鐘崎であり、史書の記述の通りにそこから宗像を通して東南に向けて陸行を続けることにより、その後の陸行と水行のルート全容が見えてくるのです。

3. 山の裾に広がる鐘崎の岬村

鐘崎の地勢は、「山が海にせまり、沿岸にそって居している」という史書の記述に合致することにも注目です。鐘崎は湾曲の頂点に在る鐘ノ岬の南側に広がる岬村です。その背後には標

高471メートルの湯川山が大きく聳え立ち、山頂からは三里松原の浜を眺めることができます。鐘ノ岬と湯島山は、天候に恵まれれば壱岐からも見ることができますが、玄界灘を航海する際の一大指標として重要な役割を果たしました。そして奈良、平安時代に至っては玄界灘の寄港地として、その山裾の広がる岬の浜は、「古代京泊の港」とまで呼ばれるようになったのです。

博多湾から東方へかけて、北九州の沿岸で他に山と呼べるような標高の高い山は、標高243メートルの対馬見山しか存在せず、しかも海岸線まで山裾を広げているのは湯川山だけです。また、山の中腹には有名な牧場が存在し、昔は韓国や中国から優秀な馬を輸入して飼育していたと考えられています。それ故、鐘崎貝塚には馬渡、番場という地名が残されています。三方を海岸に囲まれている湯川山は、その西側がなだらかに海岸周辺まで傾斜して山裾を作り、そこに鐘崎の集落が広がっています。正に鐘崎は、史書の記述通りの岬村なのです。

4. 鐘崎岬村の規模と戸数

魏志倭人伝には末盧国の戸数が四千余戸であったとの記載があり、壱岐の三千余戸よりも、若干ながら多い程度です。末盧国を鐘崎と比定した場合、四千戸という村の規模を無理なく理解することができます。現在の岬村の様相と古代とは無論、様々な相違点がありますが、村造りの前提となる地形を検証すれば、その規模や戸数に限っては、およその目安として比較検討することができます。

壱岐では、島周辺にある複数の港を中心に小規模な村が形成され、なだらかな地形を有する島であったことから島内全体にも集落が広がり、その総計として三千余戸の集落があったと認識されたのでしょう。鐘崎は港周辺の山裾のみを見れば、今日でも600戸数程しか見られないほ

どの狭いエリアですが、古代においては家屋の規模が現在よりも小さいこともあり、実際には鐘崎の南に隣接する宗像にかけて集落が広がり、一つの国を形成していたと考えられます。つまり鐘崎を含む宗像部が末盧国全体の姿であり、四千余戸とは、鐘崎と宗像周辺一帯を含む地域の戸数を指していたと考えられます。

5. 鐘崎の海人文化

末盧国が鐘崎であるという決定的な根拠の一つが、鐘崎の海人文化です。古代、北九州地域や壱岐、対馬、そして済州島の離島では漁業が生活の手段であり、いずれもアワビや他の海産物を潜って捕りながら暮らしていました。その潜水漁法と日本の海女(海人)の発祥の地が鐘崎であり、その名は北九州沿岸にてアワビ獲りをする海人らの本拠地として知られるようになりました。そして鐘崎の海人文化は近隣の港や藍島、志賀島の地域を超えて、東は山口県から石川県、更に日本海沿岸を北上して能登方面まで、西は小呂島から長崎方面、そして壱岐や対馬などの離島にまで広まりました。山口県の角島近郊にある大浦(油谷)や瀬戸島、石川県の輪島、そして壱岐の小崎浦(郷ノ浦)、対馬の曲浦などの村落では、鐘崎の枝村としての出自が今日まで語り継がれています。

海人文化の背景には、古代の玄界灘にて海を生活の舞台とする海人族の存在があり、胸肩(宗像)の海人、志賀の海人、那珂の海人の三つの存在が有名です。中でも胸肩の海人族は、元来、潜水による漁労を営む一族であったことから鐘崎海人の起源とされています。それ故、筑前海域でも、特に玄海町沿岸の漁民は「宗像海人」と呼ばれていたのです。宗像海人は、その優れた航海技術を駆使して、北九州の海上一帯を船で行き来したのです。

また、鐘崎から発掘された釣針などの釣用具や魚骨、滑石性有孔円盤らは、沖ノ島の出土物

と酷似することから、沖ノ島を統括する宗像一族と海人族は同祖であると考えられます。宗像大社の神宝館には、「宗像一族は、古代より玄界灘沿岸にて勢力を持っていたが、航海術に長け、玄界灘を海の道として朝鮮半島や中国大陸との交渉を持ち続けたことにこそ、海人族と呼ぶにふさわしい特異性があった。」という記述が見られます。また、海人族の背景には綿津見三神を祖とする安曇族の存在が知られています。古代においても航海術を携えていたという史実から、安曇族が中心となる海人族のルーツは、後述する通り、西アジアではなかったかと推測されます。古代において渡来人の優れた貢献なくしては、航海技術を培う術がなかったのではないのでしょうか。その宗像海人、安曇族の本拠が鐘崎・宗像だったのです。

佐賀の東松浦郡は、リアス式海岸という自然環境に恵まれていることから、潜水漁撈のさかんな地域としても知られています。しかし、海峡を隔ててまで渡航して、その影響力を大陸方面にまで及ぼすことのできた航海術を携え、諸外国まで影響力を及ぼしたという点においては、鐘崎の比ではないでしょう。よって古代社会において、「好んで魚フクを捕え、水深浅となく、皆沈没してこれを取る」という記述が匹敵する最もふさわしい町は、鐘崎をおいて他にはないのです。

6. アイヌ語で読む末盧国の意味

アイヌ語は北海道や樺太周辺等、日本列島の北部で主に使われてきた言語です。しかしながらアイヌ語を起源とする地名は東北地方でも多数確認されていることから、それより以南でもアイヌ語の地名が古代より使われていた可能性があります。日本列島に居住していた縄文人らが、日本各地においてアイヌ語の地名を用い、それらが伝承されてきた地域が多々、存在するのかもしれませんが。

例えば末盧をアイヌ語で解釈すると、アイヌ語のMa・Tu(マートゥ)とRa(ラー)という2つの言葉を造成した言葉と考えられます。前者は、「波打ち際の屈曲した所」のような浦曲(うらわ)を意味し、後者は「低い所」を意味します。これら2つの言葉をあわせると、Ma・Tu・Ra(マートゥラー)となり、その意味は「波打ち際の浦曲の低い所」、すなわち鐘崎のように、玄界灘の波打つ湾が屈曲する最先端の箇所にある港で、山の裾にある低い所を指していると考えられるのです。

実際、鐘崎港のすぐ南側、上八(こうじょう)そばには鐘崎貝塚と呼ばれる縄文時代の遺跡が昭和7年に発見されています。そして発掘調査の結果、古代ではこの貝塚の周辺は自然の入江となっていたのです。そして湾曲する海岸沿いでも、ここだけは入り込んだ入江となり、船の避難港として波止場がなくとも逃げ込むことができるような船着き場であったと考えられます(筑前鐘崎漁業誌)。正にその地形は、「波打ち際の浦曲の低い所」という描写と一致しています。これだけで「末盧」の由来がアイヌ語であると断定できるものではありませんが、今後も検証を要する参考データとして留意しておく必要がありそうです。

7. 万葉集が証する綿津見三神との繋がり

万葉集巻七(1230)には、「ちはやぶる金の岬を過ぎぬとも、吾は忘れじ志賀の皇神(すめかみ)」という鐘崎に関する記述があります。対馬や壱岐から鐘崎に向けて渡航するにあたり、特に鐘崎周辺の海域では海難事故が多発していることが知られていました。この海域では、風の日でも満潮時は急流のように潮が流れ、一旦時化ると、風向き次第では怒涛のごとく海が荒れ、玄界灘第一の難所となるのです。それ故、鐘崎の手前に浮かぶ志賀島の志賀海神社に祀られる綿津見神に祈りつつ、その荒波と

求人

正社員パート勤務地：成田市

① 通販事務/営業サポート/受付 (正社員・パート) 正社員▶月給 **21万円**～

内容▶電話・E-mail・faxによる注文受付や問合せに対応
資格▶タイピングスキル必須、明るく電話応対・接客が出来る方、経験者優遇
時間▶平日 / 9:00～19:00 (休憩1H) 土曜日 / 11:00～17:00

② ネットワーク・サーバー管理 (正社員) 正社員▶月給 **27万円**～

内容▶自社サーバー及びネットワークの管理・構築等
資格▶サーバー構築・ネットワークの管理業務、実務経験2年以上
時間▶平日 / 9:00～19:00 (休憩1H) 土曜日 / 11:00～17:00

③ 梱包・ピッキング (パート・正社員) パート▶時給 **1,000円**～

内容▶全国へ発送する商品の梱包・ピッキングなどの簡単な軽作業
資格▶18歳以上、学歴・性別不問、週4日以上勤務
時間▶平日 / 8:00～18:00の内6時間～ (休憩1H) 土曜日 / 11:00～17:00

給与▶①③正社員:月給21万円～、パート:時給1000円～ ②月給27万円～
休日▶日祝日、隔週土曜日、年末年始休暇、有給休暇 待遇▶社保完備、年2回賞与

応募

応募書類を下記までE-mailまたは郵送にてお送り下さい。
書類選考の上、ご連絡差し上げます。
【応募書類】①履歴書(写真貼付、自宅FAXまたはPCのE-mailアドレス明記)
②職務経歴書(志願書、自己PR等)

安定して成長を続ける業界大手企業！

営業スタッフ

時給1000円～

正社員も大募集

パートにもボーナス

全員対象の福利厚生

充実の福利厚生！
社会保険完備！
年2回賞与！他にも色々！

ハイグレード住宅：ライオンズマンション、家族用一戸建て有
天然温泉無料優待：温泉施設「大和の湯」を家族と一緒に無料利用
充実した社内施設：社内フィットネスジム、医務室など社内施設も充実
サイクル活動支援：フットサル、テニス等、スポーツサークルを支援
マイカー通勤OK：大型駐車場完備！自動車や二輪車で通勤OK
その他特典色々：海外研修ツアー、社内カイトプラクティック etc.

全館禁煙

国内最大規模の楽器・音響機器販売会社

株式会社 **サウンドハウス**

〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3 (野毛平工業団地内)

0476-89-1777

✉ job@soundhouse.co.jp (担当：採用係)

-2-

急潮を無事通り抜けられるよう願ったのです。そして鐘崎を無事通過した後も、神の恩寵を忘れずに感謝の意を表して詠んだのが、この歌です。

志賀海神社は博多湾北に浮かぶ志賀島にあり、全国綿津見神社の総本宮です。その社名が志加海と呼ばれる由縁は、志加にあるワタツミの神社と考えられています。創建の時期は景行天皇の時代以前まで遡ります。古来、勝馬の地に表津宮・中津宮・沖津宮の三社にて綿津見三神が祀られ、二世紀(遅くとも四世紀)に表津宮が勝山に遷座されたと伝えられていることから、その歴史は大変古いものです。綿津見三神とは、イザナギが黄泉から戻り禊をした際に生まれた底津綿津見神、中津綿津見神、上津綿津見神の三神です。これら三神は海人安曇族の祖神でもあり、また、安曇磯良は志賀島大神と呼ばれ、磯良の墓は対馬の和

多津美神社にあることからしても、志賀海神社と和多津美神社は、その創設者が同族であると考えられます。

対馬には合計4社の和多津美神社であるだけでなく、綿津見神を祀る古社は、対馬から壱岐、志賀島にかけて島や九州の沿岸に集中して鎮座されています。つまり朝鮮半島の狗邪韓国から北九州の末盧国、すなわち邪馬台国に至る海上航路沿いの要所周辺に「ワタツミ」というキーワードで繋がっていたのです。海を自由自在に行き来する航海術を携えた海人安曇族が、邪馬台国への海上航路を管轄する上で、航海者を目的地へと安全に導く為、その航路の要所に救護所の役割を持つ綿津見神社を建立した結果と言えます。そして5重の鳥居を有する対馬の和多津美神社を指標として始まる船旅は、壱岐の海(ワタツミ)神社を経由して綿津見三神が祀られる志賀海

神社を右手に通り過ぎ、鐘崎に到達することにより終焉するのです。そこは海人安曇族の拠点的要地、倭国の主要玄関だったのです。

8. 式内社が示唆する古代の航海路
アジア大陸から海を渡り、倭国を目指した渡来人にとって、新天地に無事到達した際にはまず、その場所で神を祀ることが大切であったと考えられます。ましてや玄界灘という最大の難所を渡る際には、神仏の加護と、それを願う為の斎場を必要としたことでしょう。それ故、長い船旅を終えて到達する九州の玄関、末盧国には、渡来人による宗教文化の痕跡が残されているはずなのです。その一つの指標となるのが式内社です。玄界灘に面する海岸の近くには合計7社が存在しますが、肥前(佐賀県東松浦郡)は加部嶋の田嶋坐神社の1社のみ。残りの6社は博多湾周辺から宗像、鐘崎までの北九

州沿岸を網羅する筑前の式内社です。しかも筑前6社の由緒は大変古く、対馬・壱岐方面から玄界灘を越えて、船舶が鐘崎方面に向けて渡航してきた史実を物語っています。

特に宗像神社は北九州地域では最も大きな影響力を誇る信仰のメッカです。そこでは天照大神の御子神である宗像三女神が祀られています。「日本書紀」によれば、天照大神よりこれら宗像三女神に対し、「永遠に皇室をお助けし、皇室からも厚いお祭りを受けなさい」との神勅がありました。建国当初の極めて重要な時期に、重大な国家鎮護の使命を授けられた訳ですが、これは大陸より船で渡来する皇族を迎えてもてなしをする為、天照大神が自らの娘達をその任務に就かせ、宗像大社の3つの拠点に常駐させたと考えられないでしょうか。よって宗像三女神は「道主貴」(みちぬしのむち)として、



沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、そして現在の宗像大社辺津宮の三拠点で世話役を務め、皇族を導く尊い神として、伊勢神宮に対して宗像大社は「裏伊勢」とも呼ばれるようになった由縁がここにあります。そしていつしか宗像君は、北九州地域周辺の多くの農村、漁村において、大きな支配力を持つようになったと考えられます。これらの歴史的背景を踏まえる限り、邪馬台国へと繋がる北九州の玄関は、鐘崎・宗像以外に考えられないのです。

成田丸×NAVI

第76回

家族連れにも嬉しいインドカレー店
ラムじいさんのインドカレー 成田店

今日はインドカレーが食べたい!という気分で、イオン成田ショッピングモールすぐそばにある、「ラムじいさんのインドカレー」を訪ねてみた。店の前にある駐車場に車を止め、開放感のある、明るくきれいな店内に足を一歩踏み入れると、大型テレビにインドのダンスミュージックが映し出され、それを見ただけで本場の雰囲気を感じられワクワク楽しい。メニューに目を通すと、元気もりもりランチメニューというどれも魅力的なセットメニューに加え、単品料理も充実。さんざん迷った挙句、お腹

が減っていたこともあり、980円(税別)の満腹ターリセットをオーダー。内容は3種類のカレーと、ナン、サラダ、ドリンクまでついておりボリューム十分!特にナンはかなりのビッグサイズで、その上なんと食べ放題!これはうれしい限り。カレーは、4種類から選べ、シーフード、チキン、そして今日のカレーのキーマをリクエスト。辛さは控えめで、ふんわり焼き上がったナンとの相性は抜群。つついナンを「もう1枚!」とおかわりをしてしまった。最後にドリンクでラッシーを頂き、これで980円とは驚きの価格!

カレーはもちろん、カバブやスナック、サラダなどの単品料理も充実しており、カレー以外のインド料理全般が楽しめるのも魅力。お子様セットなどもあり、家族連れでも気軽に利用できるのがうれしい。

ラムじいさんのインドカレー
成田市ウイング土屋262
タイムズビル 1F
☎0476-23-6260

総合評価★★★★☆

AQUAVILLE

PURIFIED DRINKING WATER

カリフォルニアのおいしい水
“アクアヴィル”

お手頃な価格でお届けします。

500ml×24本
478円
送料420円
※一部地域、離島は除く

携帯でのご注文はこちら
フィットネスハウス
0476-89-3111

何にでも使える **パレット**
無料でさしあげます

数に限りがありますので
お早めに

野毛平工業団地内
(株) サウンドハウス
☎0476-89-1777

中古スチールデスク
1,000円

※直接引き取りに来られる方のみ

69cm 180cm 72cm

サイズと型 色々あります!

●幅 160×奥行 80×高さ 72cm
▼携帯で確認 ●幅 100×奥行 69×高さ 72cm...etc.

野毛平工業団地 (株) サウンドハウス内
(株) ネットハウス
☎0476-89-2333
千葉県成田市新泉14-3

大和の湯

成田市の命泉

田園風景の先に印旛沼を望む絶景風呂
自然に囲まれ ゆったりくつろぐひととき

成田市大竹1630
☎0476-28-8111
www.yamatonoyu.com

大和の湯 効能

腰痛・神経痛・筋肉痛・関節痛、
アトピー、五十肩、うきみ、
運動麻痺、関節のこわばり、肌あれ、
くじき、痔、冷え症、慢性消化器病、
後回復期、切り傷、疲労回復、健康増進
やけど、風邪の予防など

あじさい
AJISAI

カレーの煮付け 1000円

湯豆腐 800円

あん肝酢 800円

お好み寿司 一貫 150円より
板前おまかせ 3,000円より
寿司懷石 2,500円

紫苑
SHION

お好み寿司 一貫 150円より
板前おまかせ 3,000円より
寿司懷石 2,500円

Yayoi SPA & FITNESS

癒しの空間、YAYOI SPAで
心身ともにリフレッシュ。

エステ&ボディケアの
スペシャリストがお待ちしております。

◆ボディセラピー	30分	3,200円	45分	4,500円~
◆フットセラピー	15分	1,800円	30分	3,200円~
◆アロマセラピー	30分	4,000円	45分	5,500円~
◆フェイシャルセラピー	30分	3,500円	45分	4,800円~
●カラソエ	45分	5,000円	60分	6,800円

ご希望に合わせたオプションもございます。

求人 受付&ホールスタッフ大募集!

【受付スタッフ】お客様のご案内(フロント・スハ受付)
【ホールスタッフ】あじさい・紫苑での接客・配膳など
POS打てる方歓迎、未経験者歓迎!

給与▶時給1000円
時間▶平日16:00~22:00(応相談)
土日祝12:00~22:00(応相談)
休日▶シフト制(応相談)
資格▶学歴、性別、年齢不問

施術師も 同時募集! お気軽にお問い合わせください
☎0476-28-8115

大和の湯

成田市大竹1630
☎0476-28-8111
www.yamatonoyu.com

入館料 (新年6日まで)
平日: 700円 / 土日祝: 1,000円
小学生の入館料: 300円 (大人同伴の入館の場合)

営業時間 10:00AM~10:00PM
年中無休(全館禁煙)
未就学児の入館はご遠慮ください

安食 18 成田安食バイパス

大和の湯

安食 18 案内看板

成田安食バイパス

成田空港

成田文京

下総松崎駅

成田文京

成田市街地

成田安食バイパス

成田空港

成田文京

下総松崎駅

成田文京

成田市街地

東洋医学の三快と四診

よこやますいしょう

横山 瑞生

一本堂横山鍼灸療院
1939年、茨城県常陸大宮市生まれ。
大塚敦節氏に漢方を、小川晴通氏に鍼灸を師事し、東京医療専門学校卒業後半年で母校の講師となる。中国医学研究会設立に参画、日中医療育及協会会長、東京都日中友好協会常任理事等、日中の友好関係へ尽力。

現在、一本堂横山鍼灸療院院長、東京医科大学にてホリスティック医学を講義中。「カラー版鍼灸解剖図」「アレルギーはツボで治る」など著書多数。

診療所：東京都新宿区本塩町 10 四谷エースビル 101
お問合せ：03-3359-6693

ソフトラー (PU)
カラー: ブラック
ホビー

RC27
¥18,000

ソフトラー (PU)
カラー: ブラック
アイボリー

RC15
¥12,800

ソフトラー (PU)
カラー: カキ
ブラック

RC17
¥12,800

送料無料
キャンペーン

邪馬台国の記事を連載するにつれて、対馬や壱岐だけでなく、福岡周辺も探索することが多くなりました。先日は初めて宗像大社を訪れ、心安らぐひと時を持つことができました。宗像大社の極めはやはり高宮祭場でしょう。大自然のなかに広がる神籬と磐境が調和した美しい姿は、言葉では言い尽くせません。身も心も清められた思いに浸ることができました。今後、末盧国から伊都国、そしてその先のルートについて執筆を予定しています。

1957年東京生まれ。14歳で米国に単身テニス留学。ウォートンビジネススクール卒業後、ロスアンゼルスにて不動産デベロッパーとして起業、米国ビジネス最前線で活躍する。1990年に帰国後、成田においてサウンドハウスを立ち上げる。現在ハウスホールディングス代表、日本シティジャーナル編集長を兼務。趣味はギターとマリン、エアホッケー、及び日本古代史研究。